



対話プロセスのデザインに関する研究

創造工学部
創造工学科

造形・メディアデザイン領域

教授 山中 隆史

研究シーズの概要

ニーズが多様化する中、モノづくりやコトづくりにつながる新しいアイデアを生み出すにはチーム全員が強調し知恵を結集できる対話のスキルが不可欠といえます。言語・非言語の両面から思考を深め対話を促すツールや望ましい環境を検討しています。

■ 集団における対話のデザイン

会議をはじめとする集団での対話のデザインを研究しています。特に、教育現場でのクラスの活性化も重要なミッションと考えており、自発的な発言をクラス全体から導き出すために教員から言語、非言語の両面からの働きかけを検討しています。



(クラスでのディスカッションの様子)

■ 商取引交渉におけるコミュニケーションツールの効果

コミュニケーションツールが急速に発展し身近な存在になっています。こうしたツールは商取引でも多く利用されています。商取引交渉時に様々なツールの特徴を活かし、交渉に望ましい効果を生み出す効果的な対話を行うためにはどうすればよいのか。ツールの違い（対面、TV 電話、電話、チャット）による交渉結果の違いについて研究しています。

■ 心理的距離が思考に与える影響

心理的距離の近さや遠さが思考に影響を与えるといわれています。距離には、時間的距離、空間的距離、社会的距離、仮想的距離があります。これらの距離の違いが個人や集団で考える際に与える影響や距離の相互間の影響について解明したいと考えています。

『解釈レベル理論』

Trope, Y., Liberman, N. (2010). Construal-level theory of psychological distance.



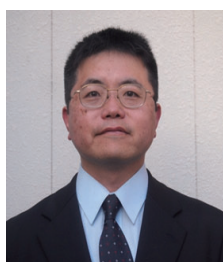
(心理的距離が思考に与える影響)

【利用が見込まれる分野】

グループワークの活性化、ファシリテーション、プレゼンテーション

研究者プロフィール

山中 隆史 / ヤマナカ タカシ



メールアドレス yamana.takashi@kagawa-u.ac.jp
 所属学部等 創造工学部 創造工学科
 所属専攻等 造形・メディアデザイン領域 (造形・メディアデザインコース)
 職位 教授
 学位 修士(学術)
 研究キーワード 非言語コミュニケーション、グループ・ダイナミックス、ファシリテーション

問い合わせ番号：EN-19-006

本研究に関するお問い合わせは、香川大学産学連携・知的財産センターまで
 直通電話番号：087-832-1672 メールアドレス：ccip-c@kagawa-u.ac.jp